

現在はその死滅期にあたり、当
面、民主化による党（さらには
個人）独裁体制の解体、官僚支
配型計画経済の市場経済化が進
行しているが、他方では、先進
資本主義社会の内部に、資本主
義モデル・民族主義に代るモデ
ルの萌芽が生まれつつあると考
える。

たとえば平和と対等な相互関
係のもとに進行しつつあるEC
（さらには欧州）統合は、イン
ターナショナルリズム形成の芽を
孕んでいるし、環境保護、反原
発等を含む新しい市民型運動は、
効率至上主義克服の価値体系が
生まれつつあることを示唆して
いる。

（アジア経済研究所研究員・ハンガ
リー研究）

世界的な民衆連合

武藤一羊

世界資本主義が、環境との非

和解性を露呈するとともに、第
三世界と中枢という人類社会の
大分裂を克服するどころか、新
しい形で深めているとき、現存
社会主義として知られてきた体
制もまた、崩壊過程にはいった。
この双方のゆきつまりの中に、
二〇世紀のはらんでいた問題が
全面的に、新しい回答をもとめ
て姿をあらわしつつあるのだと
思う。

その意味で、「社会主義」に
おこりつつある変化は、積極的
なもの、歓迎すべきものであつ
て、「社会主義」の名において、
ダメな制度、死んだ思想を維持
しようとする試みはけっして成
功しないだろう。ダメであるこ
とが暴露されてきたのは、これ
まで社会主義に等置されてきた
「共産党システム」というロシ
ア革命の産物としての歴史的制
度である。だがこれは、近代の
国民国家制度の副産物であつて、
国民国家制度がダメになりつつ
あることの「社会主義」版であ
る。

世界的な民衆の連合がそれに

対置される。
（アジア太平洋資料センター代表・
国際問題評論）

高次の共(同性)と
「ブルジョア化」

後藤道夫

既存社会主義の急速な「ブル
ジョア化」の歴史的リアリティ
とその解放的意義は明白だと思っ
ています。同時に、怠け者や弱
者にとつての不活発な天国が姿
を消すことは大変残念だとも感
じます。このことは、大量の
「過労死」を生み、弱者が馬鹿
にしつくされ、福祉国家の経験
すらない日本で、もっと話題に
なつてよいのではないでしょう
か。

こうしたことを歴史の明らか
な進歩の中での「底辺のグチ」
にしないためには、既存社会主
義の「ブルジョア化」と先進資
本主義国ですでに日常的に希求
されている高次の共同性の再建

との間に、思想的、実践的に橋
をかけることが必要だと思いま
す。国家に保障させる平等と権
利という感覚と、国家の介入を
廃して社会規模の縮小を意識的
に追求するリベタリアンの感
性とが、同時に求められること
になるのでしょうか。西欧でのい
わば「ヴァーリジョン・アツプ」さ
れた福祉国家」の運動の路線は、
この点で参考になると思われま
す。

（都留文科大学教員・哲学、技術論）

過渡期の終焉と
正統性の危機

岩田昌征

社会主義の現在を過渡期の終
焉と見る。私の規定によれば、
過渡期とは、新しい社会を否定
（資本主義ではない）形でのみ
ならず、肯定（Aである）形で
デザインし、制度化し、現実化
する試行錯誤プロセスである。
社会主義の構造と機能にかんす